

大東文化大学 社会学部社会学科

Department of Sociology



2018年4月
新学科誕生

看護学科

歴史文化学科

社会学部
社会学科



© FW&Co., 2017

大東文化大学に
カ・レ・シが
できます。



看護学科



歴史文化学科



社会学部
社会学科

こんな授業があります

フレッシュマンセミナー A

フレッシュマンセミナーの目的は学生各人が自らの問題意識を育て、その解決の道筋を探るための「問題解決」能力の基礎を身につけることです。特に、フレッシュマンセミナーAでは大学における学習を進める上で必要不可欠となる基本的なアカデミック・スキルを身につけること主眼としています。具体的には、情報の収集・整理・分析、レジュメやプレゼンテーション・スライドの作成、そして、プレゼンテーションやディスカッションを実施することにより、自らの頭と手を動かしながら大学の学習に必要な基本的なスキルを習得します。

スポーツ社会学

学校部活動や子どものスポーツから競技スポーツ、プロスポーツさらには地域のスポーツ、高齢者のスポーツ、障害者のスポーツなど、世の中には大小様々な体育・スポーツに関連する社会が形成されていて、それらが、それぞれ固有の課題を抱えています。本講義では、各社会が過去あるいは現在抱えるさまざまな課題に関して、その背景を探るとともに、課題解決に向けた取り組みや、それらを社会がどう捉えているかといったことなどを学習し、社会におけるスポーツのあり方について考えます。

多文化社会論

私たちは個性や多様性を尊重するといいつつ、異質な他者を仲間はずれにしたり、同調を強制したりします。現代社会における民族的・文化的・性的その他様々なマイノリティの増大は、同質性を基盤とする社会秩序に対する挑戦なのでしょうか、それとも未来社会の予想図なのでしょうか。多文化社会を論ずるには、マイノリティの苦労話や美談に反映された一面的な「多様性」を讃えるだけでは不十分です。むしろ私たちがなぜこれまで個性や多様性を蔑ろにしてきたか、またなぜ現在も同調を強制しているかについて考察します。

サブカルチャー論

「サブカルチャー」と聞いて思い浮かべるイメージは時代や世代、性別、趣味嗜好、文化によって異なるものでしょう。サブカルチャーの理論的・歴史的背景から説き起こし、サブカルチャーと見なされる具体的な作品分析を通して、どのように時代思潮やメディア文化の特質、受容層ライフコースの変遷、消費文化などの観点を読み込むことができるかを探っていきます。海外の事例を参照することにより、比較文化の側面にも力点を置きます。さらにサブカルチャーのこれからの可能性をどのように志向することができるのかについても検討していきます。

社会学入門 A

社会学の課題を「社会関係を焦点としつつ諸現象を解明すること」として捉え、その基本的発想が社会問題の解明と解決策の提言にどう寄与するかを示します。まず社会関係を構成する社会的行為に焦点を当て、その諸類型と、個々の行為類型を相互に比較することから導かれる論点（利害と理念、心情倫理と責任倫理、意識的動機と無意識の欲望など）を解説し、さらにそれらを適用するかたちで現今の日本社会が直面する諸問題を取り上げて分析し、解決策を探ります。

社会調査 I

社会調査の歴史や目的、方法論といった社会調査の概念と意義について学んでいきます。最初に、身近にある社会調査やアンケート調査などの事例を挙げていき、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの社会調査の諸類型について解説します。実際に行われている官公庁の統計調査や学術調査、企業のマーケティング・リサーチなど、様々な社会調査について紹介し、同時に調査におけるデータの収集方法や分析までの諸過程に関する知識を獲得することを目的とします。

ジェンダーの社会学A (近代社会とジェンダー)

男女のありかたや役割の違いとされるものは、生物学的違いによって自然に決まるのではなく、社会や文化のなかで作られ、さまざまな制度、仕組み、慣習のなかに埋め込まれてきたものです。本講義では、19世紀以降を中心とした歴史的な展開を踏まえてジェンダーを考えます。産業化を経て近代国家が形作られるなかで、「男らしさ」、「女らしさ」といった要素は、階級や人種といった他の要素とどのように結びつき、社会に影響を与えてきたのでしょうか。現代にも残る格差との関連をみつめつつ探ります。

文化社会学

現代社会におけるコミュニティのありかたを、祭礼や芸能の側面から検討します。祭礼にはコミュニティやネットワークのありかた、ジェンダー、逸脱、さまざまな力関係等の問題が反映され、社会を映す鏡といえます。当該地域が抱える問題とその対応方法を、その社会的・文化的背景も含めて理解できるようになることを目指します。講義では、日本各地で行われる祭礼をフィールドワークによって得たデータを基に取り上げます。そのうえで、グローバル化が進むなかでのコミュニティのあり方等について、多面的に検討していきます。

都市社会学

本講義の目的は、都市に関する社会学の基礎的概念の解説を行い、都市化に伴う地域社会の変動、及び、現代都市社会の諸問題を幅広く捉える視点を養うとともに、解決に向けた様々な取り組みに関する知識を提供し、問題を検討する能力を育成することです。特に、人口減少に伴い縮退する都市社会が抱える様々な課題、例えば、コミュニティの弱体化、社会的な孤立の深化、地域社会の活力の減退、居住環境の維持向上などに対する市民社会の有する潜在的な可能性について、まちづくりの取り組み事例を通して考えます。

地域デザイン論

本講義の目的は空間と社会が有機的に連関する地域をデザインするための基礎的な考え方や手法について解説を行い、豊かで持続可能な地域社会を実現する地域再生について考える能力を育成することです。特に、世界各地で研究、実践が行われている「クリエイティブ・リージョン」や「ラーニング・リージョン」をはじめとする、地域のイノベーションを促進する地域デザインの取り組みについて具体的な事例を通して理解し、現在、様々な課題に直面する地域を再生するための方法論について考えます。

海外研修A (まちづくり)

海外研修は、グローバル化する世界の動向とローカルな現象を繋ぎ合わせながら、いわゆる「グローバル」な視点をもって、日本社会の将来の姿について思考する能力を修得することを目的としています。特に本研修では、都市・地域(再)開発、地域産業の創出、省エネ対策、廃棄物問題への対応、有機農業の実践・展開等をはじめとした都市や地域の振興や再生を目指した活動を理解し、先進的な取り組みを行っている現場を視察・体験し、日本の都市や地域の将来を創造していくための学びを深化させます。

地域社会学A (人口減社会における地域社会の姿)

地域、地域社会、コミュニティ、町内会・自治会など地域社会に関する主要な基礎的概念の解説と都市化、過疎化、グローバル化、自治のあり方などの地域社会の変化に関わる用語の解説を行います。また、地域社会を巡る様々な論点～少子化・子育て、高齢化・介護、防災・災害復興、地域の消費、担い手、買い物弱者～についての現況を解説していきます。それらの課題から、現代社会と地域社会との結びつきの在りようについて考える力を修得させることを目指していきます。

ジャーナリズム論B

(ジャーナリズムの現状)

現代のジャーナリズムはいくつもの困難に直面しています。また、21世紀に入ると、社会の新たな情報基盤としてインターネットが台頭し、ジャーナリズムのあり方に変化をもたらしています。この授業では、情報環境の変化、グローバル化、マイノリティーの社会運動などの背景を踏まえ、メディア・リテラシー教育、ジャーナリスト教育、ドキュメンタリー映画、インターネット時代の世論形成などの多様な展開を視野に収めることで、オルタナティブなジャーナリズムのあり方を理解していきます。

マルチメディア論

情報技術は、近現代社会を複雑化・多様化させてきました。なかでも現在のデジタル技術は、コミュニケーション、制度、知の構造、身体感覚、芸術の表現形式等といった様々な領域に大きな変化をもたらしています。この授業では、情報社会論、メディア環境論、デジタル・ヒューマニティーズ、感覚文化論等、社会学が情報技術をめぐって蓄積してきた代表的な理論と方法を学習します。そのうえで、それらの理論と方法を個別の事例に応用し、現代社会を批判的に理解していく基礎的な能力を身につけます。

実験社会心理学B (社会集団)

実験結果を集約し考察を加える手続きについて確認した上で、環境問題や格差と貧困、各種の差別、災害時の行動など、現代社会において緊要のものとなっているいくつかのテーマについて、実験に裏づけられた社会心理学の理論によってどのような分析と対処法の提案をなすかを考えます。

コンテンツ産業論

メディア技術は世界の様々な社会へと展開していきますが、その利用法、生み出される表現様式、産業化のあり方等は、それぞれの社会によって多様です。現在の日本型コンテンツ産業が、「カワイイ」などという語によって特徴付けられるようになった背景には、メディア技術をめぐる近代日本社会に特有の価値意識やイデオロギーが作用していたと考えられます。本講義では、具体的な資料を駆使して日本型コンテンツ産業の形成と変容の歴史を実証的に検討しながら、テクノロジーと意識の関係を解明していきます。

社会学特殊講義I (マンガ文化の社会学)

マンガ(コミックス)文化は世界で様々な発展を遂げていますが、そのあり方は時代によって、文化によって多様であり、「マンガ」と一口に言っても、政治風刺マンガ、カートゥーン、コマ割りマンガ、ストーリーマンガ、劇画、エッセイマンガ、グラフィック・ノベルなど多岐にわたるジャンル、サブジャンルを伴っています。そもそもマンガとはどのようなメディアであり、マンガを研究することによって社会や文化をどのように探ることができるのでしょうか。マンガ文化を歴史的に展望し、メディア社会学の観点から批判的に分析する手法を身につけます。

キャリア支援特殊講義I (グローバルイングリッシュI)

英語上級者を対象として学生のキャリア形成上有効な英語資格試験TOEIC®の高スコア獲得をめざす科目です。上級者を対象とした少人数クラスとすることで、集中して実力を養成します。

カリキュラム一覧 社会学部 社会学科

		1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎教育科目	必修科目	フレッシュマンセミナーA・B 時事英語1・2 実用コミュニケーション英語1・2				
	選択必修科目		時事英語3 英語で読む現代社会 実用コミュニケーション英語3・4 海外英語研修			
	選択科目	ドイツ語初級1A・B ドイツ語初級2A・B フランス語初級1A・B フランス語初級2A・B 中国語初級1A・B 中国語初級2A・B コリア語基礎1A・B コリア語基礎2A・B				
専門教育科目	必修科目	社会学入門A・B 社会学の諸相 社会統計入門 情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ 社会調査Ⅰ・Ⅱ	社会学演習Ⅰ	社会学演習Ⅱ	卒業研究	
	選択必修科目①	歴史社会学 家族社会学 教育社会学 格差社会学	社会学理論A・B 社会学史 紹興社会学 情報と統計基礎実習 量的調査法 社会調査法	成熟社会A・B 社会調査実習 Introduction to Sociology (外書講読)		
	選択必修科目②	多文化と共生	必修科目	国際社会学 多文化社会論 ジェンダーの社会学A・B		
			選択必修科目		文化人類学 文化社会学 ケアの社会学	環境社会学A・B 宗教社会学 環境政策論
	選択必修科目②	都市と地域	必修科目	都市社会学 地域デザイン論 地域社会学A・B		
			選択必修科目		福祉医療政策 ソーシャルキャピタル論	地域福祉論 地方自治 行政学 財政学A・B
	選択必修科目②	メディアと情報	必修科目	情報社会論 情報科学概論 マスコミュニケーション論A・B		
			選択必修科目		情報システム マルチメディア論	統計解析基礎 統計解析応用 メディア社会 ジャーナリズム論A・B
	選択必修科目③	共通関連科目	心理学概論A・B スポーツ社会学 スポーツ心理学 ミクロ経済学A・B マクロ経済学A・B	キャリアの社会学 経営学概論A・B コミュニケーション論 社会システム論A・B 社会科学の歴史A・B	公共政策論 行動分析学A・B	
	選択必修科目③	多文化と共生コース 関連科目	国際関係論 サブカルチャー論	地域研究(アジア) 地域研究(中東) 教育心理学A・B 環境経営	社会心理学A・B 社会階層論 地域研究(北米) 地域研究(ヨーロッパ) セクシュアリティ エスニシティ	
	選択必修科目③	都市と地域コース 関連科目	民法A・B	産業心理学A・B コミュニティ心理学 都市・地域政策論	NPO/NGOの社会学 地方財政論 金融論 産業社会学A・B 消費者政策 観光社会学 行政法 子ども福祉論 障がい福祉論	
	選択必修科目③	メディアと情報コース 関連科目	心理学基礎実験A・B	マスコミ史 臨床心理学 心理統計学 情報ネットワーク	広告論 ビッグデータ論 コンテンツ産業論 プログラミング基礎 プログラミング応用 ネットワークコンピューティング 知的財産法 実験社会心理学A・B 情報処理実習	
	選択科目	社会学特殊 講義科目			社会学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	
キャリア支援 講義科目		キャリア支援特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		キャリア支援特殊講義Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ インターンシップ		
研修科目		社会活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	海外研修A・B 国内研修A・B			
全学共通科目	必修科目	総合体育A・B				
	選択必修科目	B系(社会系)または課題(テーマ)科目1~5群の中から 2科目4単位以上を選択必修とする				
	選択科目	科目内容については http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html をご参照ください。 またはクロッシングP. 65、66をご覧ください				

卒業必要単位数=124単位